

- 1 <開会>
- 2 みなさん、こんばんは。はじめまして。
- 3 公益社団法人 茨城県看護協会 水戸地区理事の看護師 中西京子
- 4 です。
- 5 本日は、このように大勢の方々にお集りいただき、主催者を代表し
- 6 て、御礼申し上げます。
- 7 本来であれば、相川三保子会長が「開会のご挨拶」をさせていただ
- 8 くべき、ところではありますが、私がお挨拶をさせていただきます。
- 9 日頃より、協会活動への関係各位の皆様のご理解、ご協力に感謝し
- 10 ております。
- 11 先の、本年、9月に発生しました鬼怒川氾濫に伴う常総市の大規模水
- 12 害の災害支援活動では、JMATを中心に、会員の皆様をはじめ、関係
- 13 各位の皆様に多大なるご支援、ご協力を頂き、この場をお借りし、
- 14 御礼申し上げます。
- 15 (スライドの切り替え)

16 さて、看護職の全国組織であります日本看護協会では、2015年度よ
17 り、「看護が医療と介護をつなぐ」をスローガンに、地域包括ケアシ
18 ステムの構築と推進のために、4の政策、13の事業に重点的に取
19 り組んでおります。

20 (スライドの切り替え)

21 そのうち、「都道府県看護協会地区支部等における看護職連携構築事
22 業」で、厳格な審査を経て、茨城県では水戸と取手の2地区、全国
23 で17都府県、計20地区のモデル事業計画案が採択されました。

24 (スライドの切り替え)

25 水戸地区は県内最大規模の会員数を誇る地区です。

26 茨城県、とくに県央地域の中核を担う、この水戸医療圏におけるこ
27 のモデル事業の成否は、茨城県における地域包括ケアシステムの構
28 築と推進にとって重要な試金石となるだけに、モデル事業の成功に
29 向け、皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。

30 (スライドの切り替え)

31 ここからは、水戸地区理事として、水戸地区のモデル事業の概要に
32 ついてご説明させていただきます。

33 スライドをご覧ください。

34 上から、シンポジウム、意見交換会、事例検討会、地区研修会、そ
35 してカンファレンスの5つの事業からなります。

36 そのうちの、本日の、②の意見交換会の詳細についてご説明させて
37 いただきます。

38 まず、そのねらいです。

39 私たち看護職はもっと地域に目を向け、多職種と連携し、かつまた、
40 自分自身が地域のコミュニティーの一員でもあることを強く自覚し
41 ながら、地域住民との連携を図ることが、日本看護協会の目指す看
42 護職連携構築事業の出発点、その礎になるとの考えから、看護職が
43 幅広い専門職種の方々と共に、地域について語り合う地域学習の機
44 会をと開催させていただいたのが、本日の意見交換会の趣旨です。

45 「地域包括ケア」は、医療人が、医療、介護、保健、福祉の垣根を
46 超えて、語れる、そして、語るべき重要なテーマの一つであるとい
47 う理解については、皆さん異論のないところだと思います。

48 茨城県看護協会としても過去にこのような趣旨のイベントを催した
49 ことはなかったのではないかと思います。

50 ですから、新規性も求められる、モデル事業ならではのチャレンジ
51 企画といえます。

52 水戸市の西部エリア、JR 常磐線赤塚駅半径 3 キロ圏内に居住、勤務
53 する医療・介護職の方々を中心に、本日は医師から事務職に至るま
54 で多数お集りいただき、重ねてお礼申し上げます。

55 (スライドの切り替え)

56 ご覧ください。こちらが意見交換会のポスターです。

57 今回は地域コミュニティーの方々のご協力により、「スターバックス
58 水戸赤塚店」など各所で掲示いただき、このポスターをご覧になっ
59 てご参加いただいた方もいらっしゃいます。

60 (スライドの切り替え)

61 子供からお年寄りまで、すべての日本人を乗せた飛行機が、2015年
62 から2025年へと、安全、確実に飛行できるよう、私たち医療人が
63 信頼関係を構築しながら、連帯、連携している姿がデザインされて
64 います。

65 (スライドの切り替え)

66 みなさんの思いを、ここ、みと・あかつかから、全国へと届けたい
67 との思いをかたちにしたのが、この黄色のシンボルマークです。

68 「♪線路は続くよ どこまでも」、ですよね。

69 本日、スタッフが着けているのがそれです。

70 なお、この水戸地区のモデル事業では「医療人」という言葉は、医
71 療、介護、保健、福祉の4分野を支える人たちを指す言葉として使
72 っていますので、ご了承くださいますようお願い致します。

73 (スライドの切り替え)

74 さて、本題に入ります。

75 本日の意見交換会のタイトルは何だったでしょうか？。

76 「わが町の『地域包括ケアポートフォリオ』を作ろう！～できるこ
77 とから始めよう～」でしたね。

78 この「地域包括ケアポートフォリオ」って何だろうと思って、この
79 言葉に魅かれて来られた、という方も少なくないと思います。

80 「こんな言葉は今まで一度も聞いたことがない。」とか、「『地域包括
81 ケア』と『ポートフォリオ』という言葉が結びつかない、しっくり
82 こない」とか、「これは、画期的な取り組みだから、全国に普及させ
83 るべき」など、大変大きな反響がありました。

84 「地域包括ケアポートフォリオ」とは、団塊の世代が75歳以上の高
85 齢者になり、その数、日本人の4人に一人となる、これから10年後
86 の「2025年問題」を、私たち医療人が専門職として、かつまた、地
87 域のコミュニティーの一員として、どのようにすればうまく解決で
88 きるのか、何ができるのか、その思い、つまりアイデアがいっぱい
89 詰まったもののことです。

90 「ポートフォリオ」とは、そのアイデアを入れるための「入れ物」
91 のことです。最初は空っぽです。

92 パソコンやタブレット、スマートフォンを使っているとよく出てく
93 る、ファイルを分類、整理するための「フォルダ」という言葉があ
94 りますよね。その「フォルダ」と全く同じ意味で使っています。
95 ですから、「地域包括ケアポートフォリオを作ろう」というのは、そ
96 の入れ物の中に皆さんの思いや声、提案を入れようということなん
97 ですね。
98 スライドをご覧ください。地域包括ケアポートフォリオには、「医療
99 人用」と「地域住民用」の2つあります。
100 今日、広く普及している、クリニカルパスにも、「医療者用」と「患
101 者用」の2つありますよね。
102 もうすでにお気付きの方もいらっしゃると思いますが、地域包括ケ
103 アシステムの構築と推進を目的に、日本医師会や日本看護協会など
104 職能団体によって現在、全国各地で鋭意展開されている、数々のモ
105 デル事業、シンポジウムやフォーラムなどの取り組みは、この左側
106 の、私たち医療人が自分たちのために使う、医療人用のポートフォ
107 リオを作ることが目的なんですね。

108 ちなみに、水戸地区のモデル事業で何がそれにあたるかといえば、
109 ①のシンポジウム、③の事例検討会、そして④の地区研修会の、3
110 つの事業です。
111 ですから、みなさん、ご安心ください。
112 地域包括ケアポートフォリオという言葉自体を知らなくても、一度
113 も使ったことがなくても、私たちはすでに、それを実践してきてい
114 るからです。
115 ここまでの話はよろしいでしょうか？。
116 もう一つのポートフォリオ、この、右側の、地域住民用のポートフ
117 オリオですが、これは現在、国や県そして市町村といった、行政が
118 中心になって作っているものです。
119 最近では大学も、「地域貢献」、「社会貢献」を目的に、学生さんたち
120 が授業の中で取り組んでいますよね。
121 「社会課題」を解決しようと、各種のNPOの活動も増えていますよ
122 ね。

- 123 みなさんのテーブルには、透明のプラスチックの箱が置いてありま
124 すが、実はそれがポートフォリオなんです。
125 ラベルには何と書かれていますか?。「地域住民用」。
126 はい。そうなんです。これは、地域住民用のポートフォリオなんで
127 す。
128 私たち医療人が、わが町、みと・あかつかのコミュニティーの一員
129 として、この地域住民用のポートフォリオの中に入れるものを、作
130 ろう、「できることから始めよう」というのが、本日の意見交換会、
131 グループワークのテーマです。
132 つまり、わが町、みと・あかつかで働く、暮らす、私たち医療人が
133 持っている知識や経験を生かし、共同作業をしながら、わが町、み
134 と・あかつかにふさわしい、みと・あかつかに合った、地域住民用
135 のポートフォリオを作ろうということなんですね。
136 私たち医療人が作る、地域住民用のポートフォリオはどういう内容
137 でなければならぬのでしょうか?。

138 それは、わが町、みと・あかつかで働く、暮らす人たち、地域住民
139 が、なぜ地域包括ケアが必要なのかその理由を十分理解、納得し、
140 自ら主体的、積極的に私たち医療人と連帯し、協働できるような内
141 容であることが理想ですよね。

142 地域で働く、暮らす、健康な人たちの声に耳を傾け、その考えを良
143 く理解することは、私たち医療人にとって、とても大きなメリット
144 があります。

145 それは、私たち医療人に今強く求められている「医療の質」や倫理
146 性の向上に役立つからです。

147 地域包括ケアは医療人の力だけで片付けられる、問題ではありませ
148 ん。

149 カンファレンスのタイトルにもなっていますが、「病院力を、地域力
150 に。」。

151 つまり、職域を超えて医療人が英知糾合、連携することによって生
152 み出される「病院力」を、健康な人たちを含めた、すべての地域住
153 民の理解と協力の下、「地域力」へと連動させていく、つないでいく
154 ことが必要なわけですね。

155 これで、水戸地区のモデル事業、意見交換会の詳細についての説明
156 は終了させていただきます。

157 ここからは、「地域包括ケアポートフォリオ」の理解をより深めてい
158 ただくために、「そもそも『ポートフォリオ』って何だろう?」とい
159 うテーマで、「ポートフォリオの基礎の基礎」について、水戸市医師
160 会看護学院の大澤優子先生に、お話させていただきます。

161 では、大澤先生、よろしく申し上げます。

162 <大澤先生講演>

163 大澤先生、ご講演ありがとうございました。

164 それでは、グループワークに入らせていただきます。

165 担当の若松さん、深谷さん、よろしく申し上げます。

166 <グループワーク>

167 みなさん、お疲れ様でした。

168 みなさんの貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。

169 私の方からも、最後にひと言、みと・あかつかで働く、暮らす医療
170 人の一人として、意見を述べさせていただきたいと思います。

171 先ほど、地域包括ケアポートフォリオには、医療人用と地域住民用
172 の2つがあるとお話しましたが、みなさんの中には、地域住民用の
173 ポートフォリオは国や自治体が作っているのだから、今さら、あえ
174 て、私たち医療人が取り組む必要などあるのだろうか?と、疑問に
175 思われた方もいらっしゃるのではないかと思います。

176 確かに職能団体が、地域住民用のポートフォリオの策定で行政に協
177 力したり、市民公開講座など独自の事業を展開することもあります
178 が、情報が分散されて発信されているために、当局はもちろん、地
179 域住民にとっても分かりづらい状況になっているのではないかと思
180 われます。

181 それが、「地域包括ケア」という言葉自体が地域住民の間に今一つ浸
182 透していない原因の一つではないかと思われれます。

183 そこで、地域の医療人が連携して、地域に合った、地域にふさわし
184 いポートフォリオを作る必要があるんだと思います。

185 そこでは、医療人が「指導する」とか、「導く」というかたちではな
186 く、地域住民が自ら主体的、積極的に私たち医療人と共に、タッグ
187 を組んで、手と手を取って、取り組めるような内容でないといけな
188 いというのは、先ほどお話した通りです。

189 ではそれが、どのような内容になるのか、といいますと、私たち医
190 療人と、健康な人たちを含めた地域住民が、「医療資源には限界があ
191 る!」、「医療には国境がある!」という考えを共有し、医療資源の
192 保護、医療環境の保全に向け、協力し合う関係を構築することでは
193 ないかと思っています。

194 つまり、医療と地域の関係、古くて新しい言葉、「地域に根差した医
195 療」という言葉の意味を問い直すことがその第一歩になるんじゃない
196 いかと思っています。

197 モデル事業は今後も続きます。

- 198 モデル事業に関して、ご意見、ご感想、ご質問などがありましたら、
- 199 私のメールアドレスの方にお寄せくだされば幸いです。
- 200 来る、来年3月5日、土曜日、みと・あかつかの地域住民も交えた、
- 201 みと・あかつかカンファレンスが開催されます。
- 202 このカンファレンスは、本日の意見交換会で皆さんから頂いたご意
- 203 見、ご感想を可能な限り反映された内容構成にすべく、今後、スタ
- 204 ップと共に検討を重ねてまいります。
- 205 ありがとうございました。
- 206 これにて、本日の意見交換会を閉会させていただきます。
- 207 お疲れ様でした。
- 208 <散会>